令和5年度　大津市立平野幼稚園　学校教育評価の結果

1・平野幼稚園の教育目標

- 明るく、楽しく遊び子ども
- すすんで取り組み、考える子ども
- やりとげる子ども
- 心を通わせる子ども

体　人　遊び

とことん向き合う子ども

2・本年度に定めた重点的に取り組む目標を基に設定した学校評価の具体的な評価項目

重点的に取り組む目標		具体的な評価項目
①	体・人・遊びにとことん向き合う子どもの育成と教師の質向上	一人一人の主体的で心ときめく遊びや生活の保障
		主体性を発揮し、高め合う教職員「チーム平野」
②	地域の子どもたちのために、地域の中で、地域とつながりながら子どもを育てる	地域の子育てセンター的機能の充実
		学びのつながる平野幼小

※項目3.及び項目5の評価結果の表示方法
4･･･十分達成されている　3･･･達成されている
2･･取り組まれているが、成果が十分でない　1･･･取組が不十分である

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目		結果	理　由
①	一人一人の主体的で心ときめく遊びや生活の保障	3	・子どもの主体性を引き出すためには、ありのままの自分を表出できる環境が大切だと考え、教職員、友達との関係づくりを行ってきた。一人一人の困難さを読み取り、願いや目的を実現できる環境づくりや支援を行ってきたことで、自分で判断し行動する子どもの姿が見られるようになった。 ・互いに受け止め、生かし合う関係づくりのためには、子どもたちが納得して解決する過程に、しっかり向き合い、支える教職員の保育力の向上が課題である。
②	主体性を発揮し、高め合う教職員「チーム平野」	4	・一人一人の教職員の意見や悩み、考えを受け止め合おうと意識してきたことで、学年を越えた交流や連携の意識が高まり、園の方針や目標に向け、一丸となって目指すことができた。 ・新たに特別支援教育に視点をもった研究保育を行った。互いの保育技術や保育観に触れ、自らの意識改革につなげることができた。
③	地域の子育てセンター的機能の充実	3	・関係機関や地域の人、団体、場所を保育に生かし、保護者にそのねらいや意図を伝えるようにしたことで、保護者や子どもが、地域への安心感や親しみを感じるようになった。 ・未就園児事業において、保健師によるミニ講話や、自治会掲示板での広報を依頼したことで、参加者の増加が見られた。家庭での子育てにおける不安感や孤立感の解消のため、今後も内容を工夫して開催していきたい。
④	学びのつながる平野幼小	3	・５歳児が授業を参観したり５年生と交流したりするなど、子ども同士や学校訪問の機会は増えている。保護者に対して、互いのねらいや子どもの様子を発信し、保護者の安心感につなげていくことが必要である。 ・スタートカリキュラム委員会を開催し、共通する子どもの課題について協議できたことは成果である。

4. 学校関係者評価委員会による評価及び意見の概要

・一人一人の子どもがありのままの自分を出せる環境、その子どもの気持ちや思い、考えることを理解しようとする原点の重要性を改めて感じる。子どもたちの言葉や姿から、思いをしっかり見取り、個に応じた支援をすることが、保護者、子どもの安心や成長につながると思う。
・様々なシフトの先生方の意見の共通はむずかしいと思うが、カンファレンスなど工夫して取り組まれている。
・多岐に渡る家庭の在り方への対応が求められるが、公立幼稚園として地域の親子を支えてほしい。
・架け橋期の交流から見える共通のよさ、課題を共有し、同じ視点で見ることは大切だと思う。幼、小、中の連携は今後も積極的に継続してほしい。

5. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的な目標の総合的な評価結果の概要

結果	理　由
3	・目標①②については、自己評価、関係者評価とも達成されているという評価であった。子どもの主体性を引き出すために、それぞれの教職員が主体的に取り組むことを互いに認め合い、個々の教員の教材研究や、カンファレンスや園内研修での積極的な意見交換など、「チーム平野」としての保育の質向上につながった。また、子どもの困難さを読み取りどのように支援するか考えてきたことで、子ども自身が自分の可能性への期待を感じながら、自己発揮する主体的な姿を引き出すことができた。 ・未就園児親子や小学校、地域の関係機関や団体、人との関係づくりは充実してきた。今後も情報発信や互恵性のある取組内容など、ニーズに合う取組を推進していくとともに、公立幼稚園として、学区内の幼児教育・保育施設同士の連携にも目を向け、就学前教育・保育の重要性の理解促進に努めていきたい。